

「なかしべつ景観フォーラム」～中標津の景観を語り伝えるために～ アンケート集計結果について

2月19日に開催いたしました本フォーラムにつきまして、寒さ厳しい中ご多忙にもかかわらず多くの皆さまにご参加をいただき厚くお礼申し上げます。

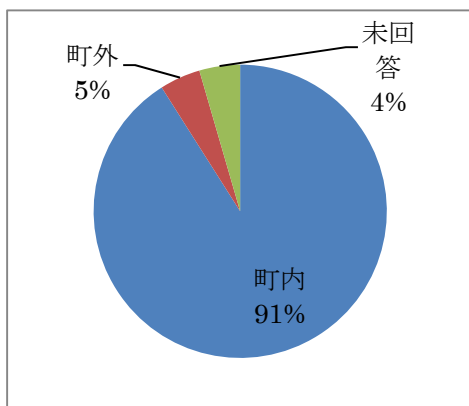
フォーラムに参加された皆様に配布いたしましたアンケートにたくさんのご協力をいただき、誠にありがとうございました。皆さまからいただきました貴重なご意見をまとめましたのでご報告いたします。（全参加者114名中89名から回答をいただきました。）

フォーラムでもご説明いたしましたとおり「中標津町景観計画」策定に向けて、アンケート結果につきましては、今後の景観行政の推進のために参考とさせていただきます。

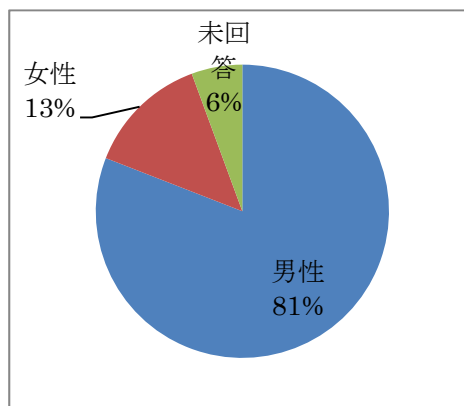
また、来年度以降においても、ワークショップやフォーラムの開催を予定しております。より良い計画とするために多くの皆さまからのご意見を賜りたく、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

1. ご自身についてお知らせください

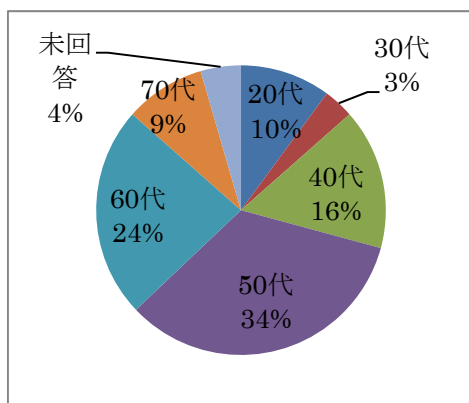
①お住まい



②性別



③年齢



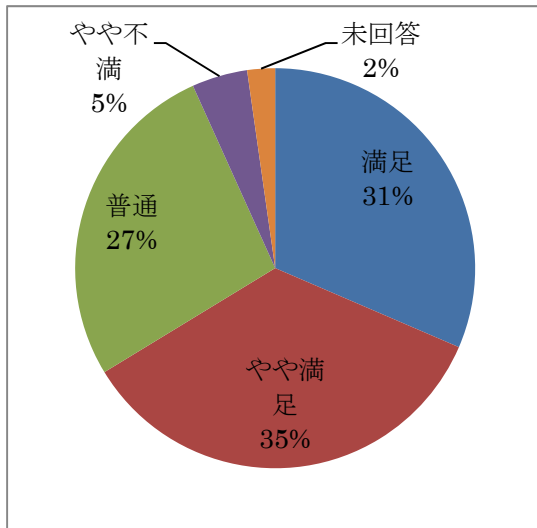
フォーラム参加者は114名でした。そのうちの9割が町内からの参加者で、男女別でみると8割が男性でした。

景観形成の推進においては女性の観点も必要であることから、今後は女性を対象としたイベントの開催など検討が必要と感じました。

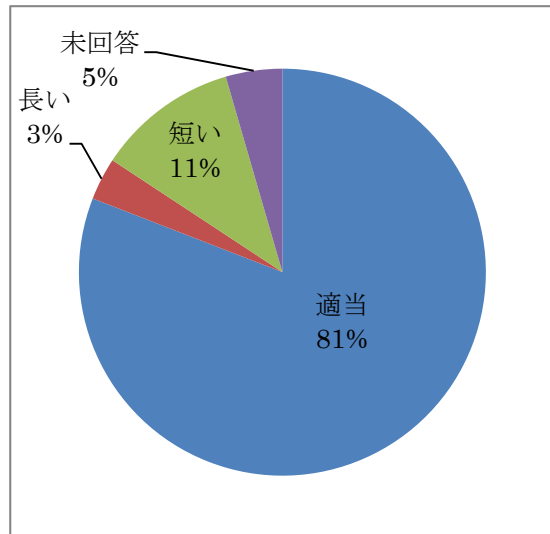
年齢別では若年層の参加者が少なかったことから、これからのまちづくりを担う若い人たちにも参加していただけるような内容を検討したいと思います。

2. 基調講演「日常の暮らし・生業が支える景観づくりについて」

①内容はいかがでしたか？



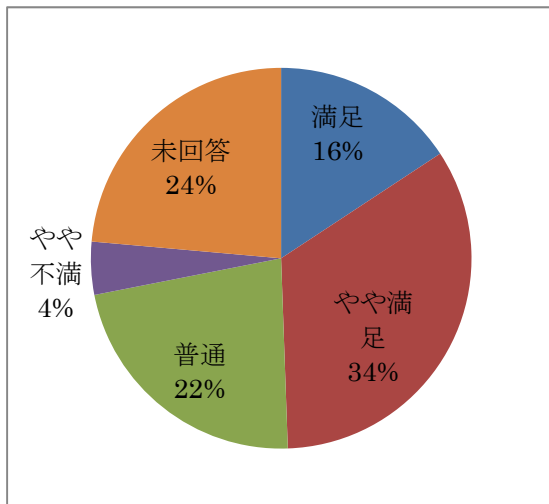
②講演時間はいかがでしたか？



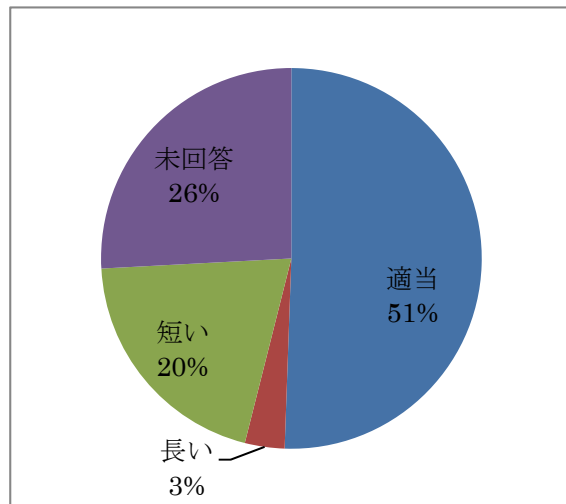
基調講演については、「満足」「やや満足」を合わせると参加者の 2/3 から満足であるとの回答を頂いており、時間も適当であるとお答え頂いております。

3. パネルディスカッション「中標津で大切にしていきたいこと、協働のまちづくりに向けて」について

①内容はいかがでしたか？

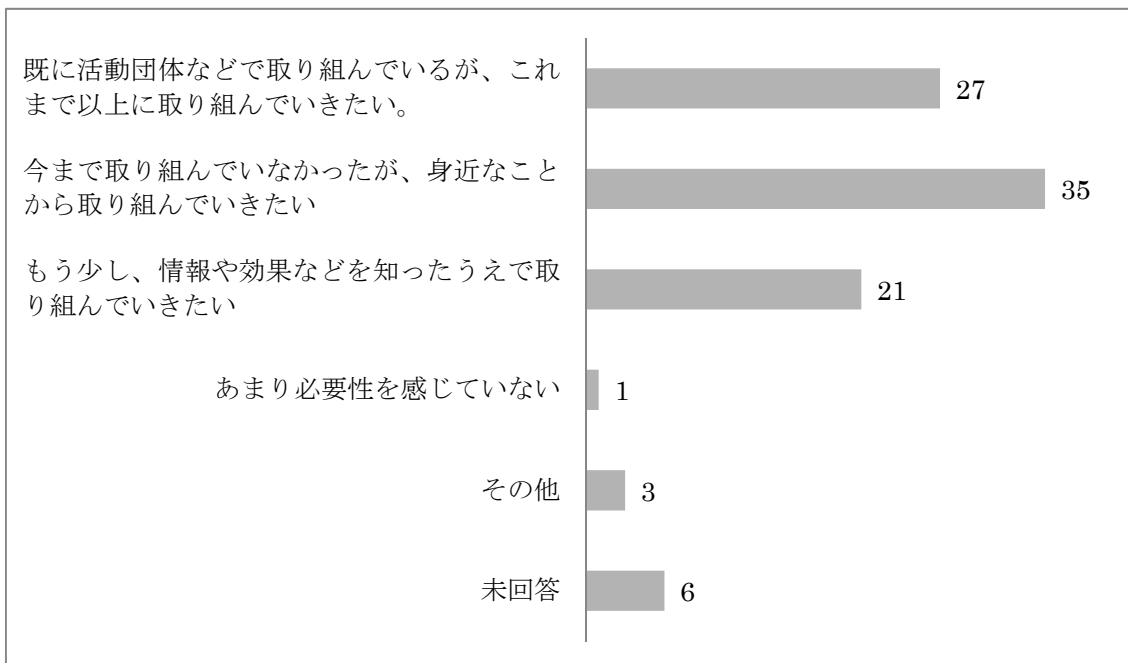


②時間はいかがでしたか？



パネルディスカッションは、「満足」「やや満足」を合わせると参加者の半数から満足であるとの回答を頂いています。時間も半数が適当であると答えて頂いていますが、短いとのご意見も多く、今後フォーラムの構成について検討が必要と感じました。また、1/4 が未回答であることから、パネルディスカッション終了後時間に余裕がなかったためだと思われます。反省すべき点であると感じています。

4. 今回のフォーラムに参加いただき、“協働の景観まちづくり”に向けてご自身も景観まちづくり、地域づくりに取り組んでいきたいと思われましたか？（複数回答）

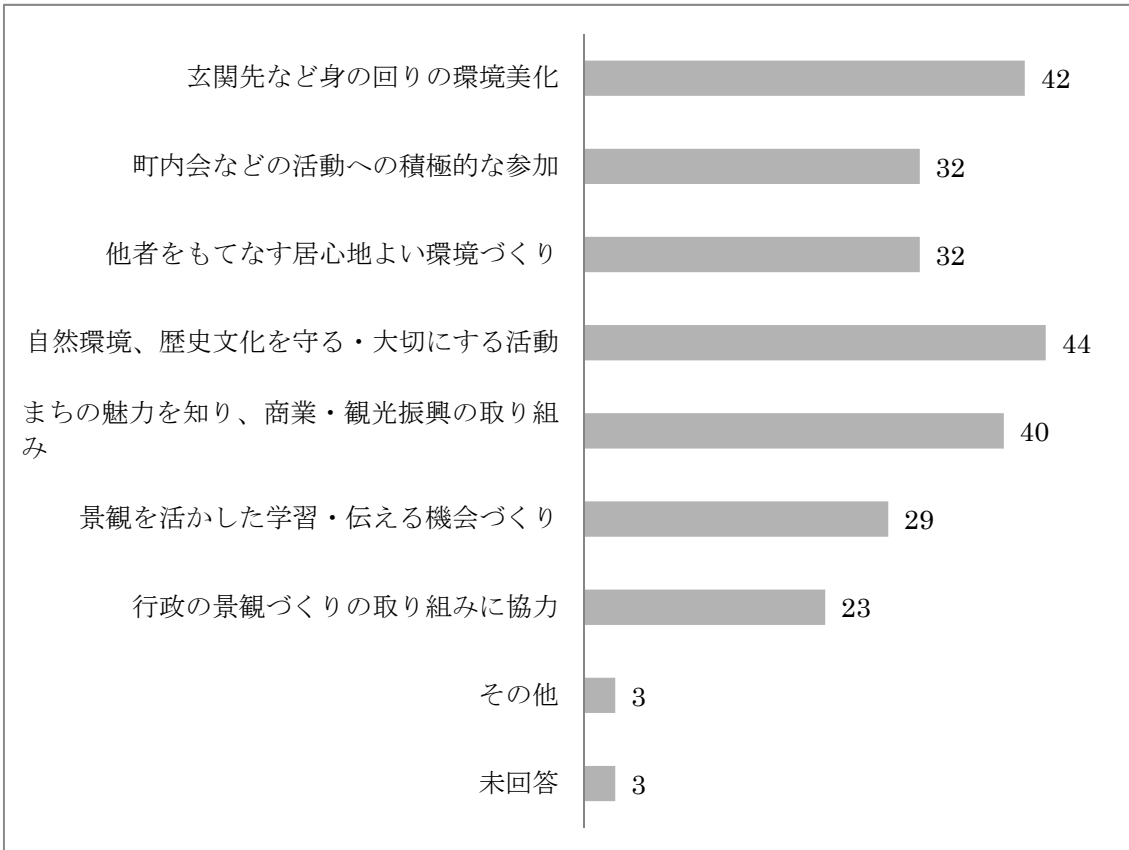


回答者の約30%が「既に取り組んでいる」と答えています。さらに約40%の方が、「身近なことから取り組んでいきたい」と答えていることから、景観に対する意識が高いと感じられます。一方で24%の方は「もう少し情報や効果を知りたい」と回答していることから、今後も様々な方法で情報提供が必要であると感じました。

（その他のご意見）

- 何か取り組みを考える
- 日々の生活でいっぱいいっぱい、余裕がない。
- かつてのパークタウンと呼ばれた中心市街地は住宅の形状、色彩においてダメになった。それをなんとかしたい…。

5. 個人または組織（事業者、活動団体など）として「できそうなこと」または「取り組んでいくべきこと」は、こういったものとお考えですか？（複数回答）

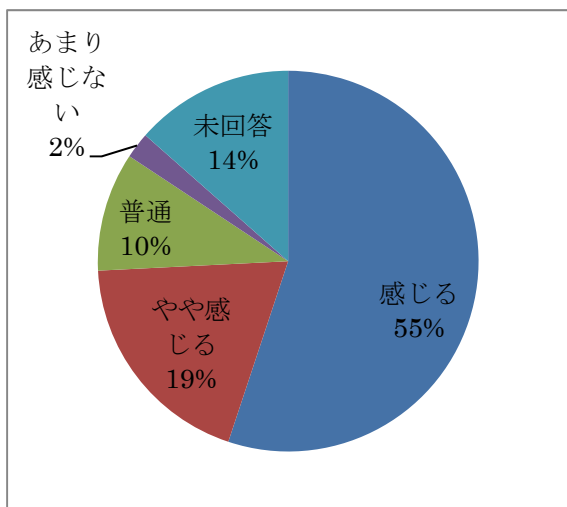


回答者の約半数の方が、「身の回りの環境美化」や「自然環境、歴史文化を大切に
する」「商業・観光振興の取り組み」と答えています。

「できそうなこと、取り組むべき」ことを、ワークショップなどを通じ、皆さんか
らのご意見を集約し、今後の景観まちづくりにおける協働へとつなげていきたいと
考えています。

6. 各種の活動団体が“協働”しながら活動を行っていくことについて。

①協働の必要性は感じますか？



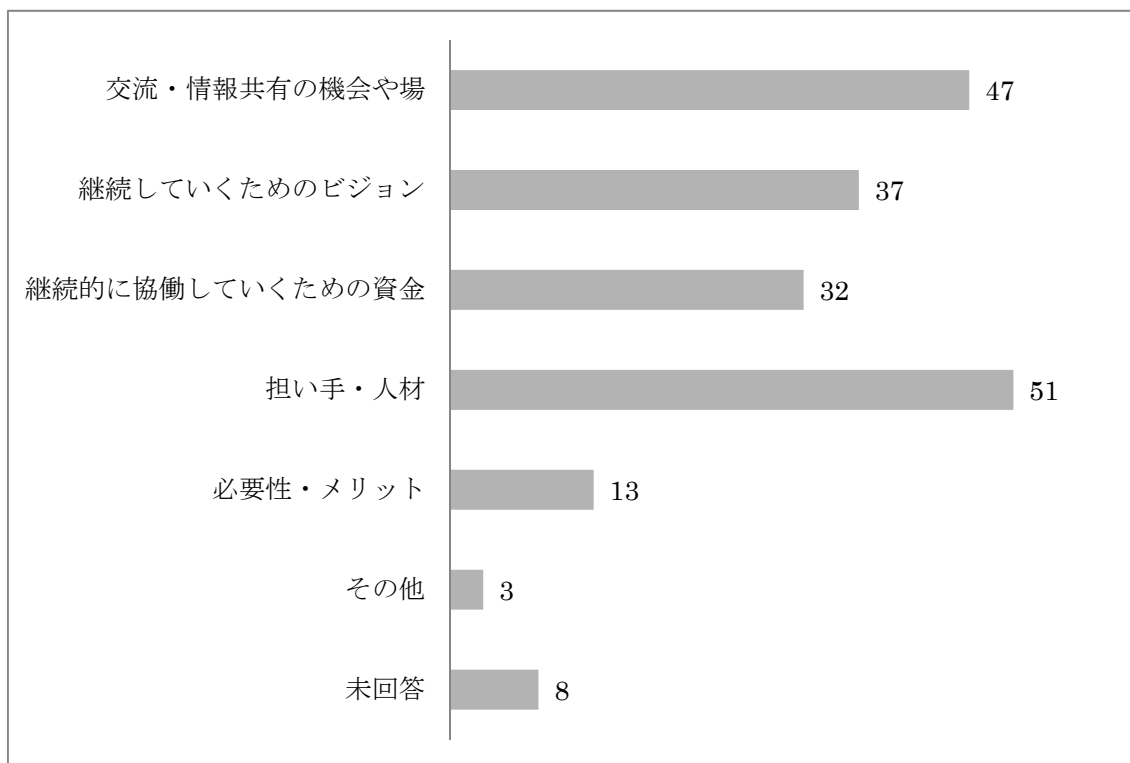
「感じる」「やや感じる」とを合わせると 83%の方が“協働”についての必要性があると答えています。

また、「なぜ、そう感じましたか？」の問いに対しては約半数の方からご意見を頂いております。

なぜ、そう感じましたか？（主なご意見）

- ・自分たちのまちは自分たちで暮らしやすくするものと考えています。
- ・自主性を育てることが大切と思う。協働は結果そうなることが望ましい。
- ・地域づくり、まちづくりは1人ではできない。
- ・行政だけで策定でもダメだし、個人だけでもできるものではない。
- ・一人ではできない事を行政といっしょに出来たらいい。
- ・行政で出来る事は限られているし、住民が出来ることも限られている。協働することによって不足を補う必要がある。
- ・協力して活動した方が、より大きな実績をあげることができるはず と思う。
- ・多種多様な考え方がある。その考え方を同じ方向へまとめるのではなく気づかせる。
- ・各々の団体は固有の目標や狙いをもって推進ないしは運営しているが、団体同士の横の連携をもって総合的な発想を持つ必要があると行える（つまり協働の意味）ネットワークづくり。
- ・団体ごとに活動するよりも、協働で活動したほうがまとまりのあるものになると思う。
- ・思いを広げるためにも大切。
- ・行政だけにまかせず、町民が意識を高めていくために様々な団体が協力していくべき。
- ・一人ひとりの活動をつなげるため。
- ・まだまだやることがたくさんありそう。
- ・協働＝要求にならなければ良いが？
- ・情報共有が大事だという事が実感。となり町との関係も必要だと思う。
- ・協働することによって、様々な角度からの意見・考えが産まれる。
- ・中標津町(市街)地の町内会加入率 50%を考えると、地域活動→協働ができるのか・・・？我々の年代は興味あるが若い世代は？
- ・景観は全て（生活、産業）を含むので各々（行政、NPO）の活動だけでは横のつながりが持てないので、色々な人の考え、ノウハウを持ち寄っていかなくては難しい。

②協働しながら活動していくためには、どのようなことが必要と思いますか？（複数回答）



回答者の約半数が「交流・情報共有の機会や場」と「担い手・人材」について必要と答えています。このことを踏まえ、担い手や人材を確保するためには、交流の場を増やし、積極的に情報を発出しなければならないと感じました。

7. 全体をとおしての感想、ご意見・ご要望（自由記載）

- 景観を守るという主題が多いうちで、景観を整備 伝えると言う題目は面白かった。
- 景観の価値は歩く事と知り経たり！自然を守る事のコストは誰が負担するの？せせらきの音が感動を呼ぶと知り経たり！
- 景観への市民レベルの輪をさらに拡げ、認知度もさらに高めるべき。景観を守るためには価値を高める必要がある。手付かずの自然河川がたくさんあって素晴らしい。
- 景観への市民レベルの輪をさらに拡げ、認知度もさらに高めるべき。景観を守るためには価値を高める必要がある。手付かずの自然河川がたくさんあって素晴らしい。
- 坂井先生が最後に言われた「餅の絵」計画はみんなで考えるが、それを最後に移していく町民の育成があまり取り組まれていない。例えばアカデミー的な集いが年中定期的に実施されていたらいいなと思います。（セミナーなど）適宜講師を招いて。各種団体（文化スポーツほか色々な団体）が年に何日か情報交流する場を設定しないと具現化していかないとと思う。
- 景観計画の大切さがよくわかりました。まちづくりの根幹であり、それぞれの政策を理解していくにも景観計画が必要であると実感できました。
- 老人が増えている 散歩している人が多い できれば中標津周回ロードヒーティング歩道があれば良いと思う 病気予防にもあるくことが必要
- 中心市街地活性についての話をもう少し聞きたかった
- 人にやさしい町に！
- 今年は何をやるのかとの意向を具体化してほしい
- 地元の当たり前の景色をこれからも大切にする為に少しでも協力したいと思いました。
- 自然だけが景観ではなく、街の景観として人が住みやすく、住みたい街として環境が必要。人がいなくなるとは景観もできない。人づくりや産業づくりも必要ではないか。
- 自然を守ることと感じます。次の世代につながる「田舎の自然を守る思い」を育てて行きたい。高望み大風呂敷を広げない地道な活動をお願いします。
- 北海道遺産として巨大格子状防風林を認定した辻教授はこのなかまっぶにおいて、環境大学を開講されています。その時の我地域の自然環境を一言の「キーワード」で表現され、それは非常に示唆に富むものでしたが、この場に語り継がれていない事を非常に残念に思います。
- 小浦教授の講演とても良かった。景観とは人々が生きてきた記憶、大事にしたい風景の成り立ちを景観づくりの作法とするなど、まちづくり大切にしていきたいことを改めて考えるキッカケになりました。坂井先生の講演（説明）も良かったです。この先決まる景観条例が良いものになることを期待します。
- おまつりやイベントの時などにも、今回のようなフォーラムをやってみても良いのではないのでしょうか。

- 映画のロケ地をもっと大切に。西竹小、去年の雪害で屋根がこわれている。競馬場→場所はあるが競馬はなくなった。なくなったもの→上武佐駅 旧町立病院
- 守るべき景観は守る
- 坂井先生へ。地形図を見て中標津に来たい！と思ったように、道内・国内で同じように坂井先生が思う、興味のある町はどこですか？
- 最後の「礼拝」の時間をもう少し多く取ってほしかった。
- 次の世代にどう伝えていくのか？今までのいいところを残して、これからどの様に変えていくのか。自分の住んでいる中標津町が一番住みやすいと思います。まちづくりに参加出来たらいいと思います。
- 改めて行動計画をどこまで入れることができるのか大切だと感じました。
- 講演良かったです。旅行でよその風景に惹かれますが、中標津のさっぱりとした風景にふれ、ホッとします。年をとって車を運転できなくなっても、暮らせる町になってほしい。
“景観”むずかしいと感じた
- 行政が実働するための道標を集約していただき、その実現のために、それぞれの活動団体や事業者が協働するという積極的な循環ができれば素晴らしいと思う。
- 中標津についてもっと知る必要があると思った。知らないだけで魅力はたっぷりある。それを発見し伝えることも景観形成につながることを再認識しました。
- 小浦先生のお話をもう少し聞いてみたい。場所、時間を考えてほしい。